



第1号・ケヤキ並木通信を発行します

都筑区すみれが丘けやき通りのケヤキ並木は1972年のすみれが丘の誕生以来、この町のシンボルロードとして多くの人々に親しまれ、今では樹齢約50年の立派なケヤキ並木となっています。

横浜市都筑土木事務所では2017年までにケヤキ並木の街路樹診断を実施し、不健康な木や交通の支障になる木は伐採するなど、ケヤキ並木の改善に努めてきましたが、将来を見据えて考えると、この町のシンボルロードである並木道を「どのように維持管理していくか」が課題となっています。

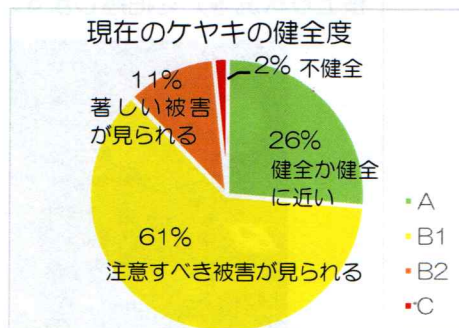
土木事務所では地域の皆様と共に、このすみれが丘けやき通りの未来について検討していきたいと考えています。これまで2018年3月23日第1回意見交換会（町内会役員様対象）、2018年7月1日組長会にてけやき通りのケヤキの現況、被害状況、今後の進め方について共有を図ってまいりました。

この度、すみれが丘町内会の方々を対象に「第1号ケヤキ並木通信」を発行し、これまでの内容を共有するとともに、今後も継続的に「ケヤキ並木通信」を発行していくことで進捗状況について情報発信していきます。どうぞよろしくお願い致します。

けやき通りのケヤキの現況

2018年3月時点で現存している生立木（122本）の健全度を判定したところ、右図の結果となりました。

街路樹診断では、樹木の健全度はA、B1、B2、Cで判定されます。



第1回意見交換会の様子

●健全度判定

健全度	判定の基準の概要
A 健全か健全に近い	活力があり、異常がないか軽微な異常で、局所的または軽微な処置で問題ない。
B1 注意すべき被害が見られる	活力の低下や腐朽の進行が予測され、被害が各種見られ注意を要し、簡易な処置が必要。
B2 著しい被害が見られる	活力がなく、幹や根の腐朽が進行し、その他にも被害が見られ、何らかの処置が必要。
C 不健全	活力が悪く、幹や根の腐朽が著しく、極めて不健全な状態で回復の見込みがない。倒木や幹折れの危険がある。

出典：東京都公園緑地部 『H26 街路樹診断マニュアル』 2014 要約

ケヤキの被害状況

「横浜市街路樹設置基準（昭和53年9月）」では、ケヤキの植栽間隔は15mとしていますが、すみれが丘けやき通りでは、6mより狭い間隔で植栽されており、全体的に過密状態にあります。2017年度初期診断では、限られた歩道の幅の中で、生育容量を超えてケヤキが大きくなっているため、約45%のケヤキに舗装・縁石を持ち上げ破壊する「根上り」が起こっている状態が確認されています。また、剪定による大きな傷口や、樹皮枯死・欠損・腐朽、枯れ下がり、キノコの着生、材の腐朽等の問題のあるケヤキは42%もありました。



根上り



樹皮枯死・欠損・腐朽



枯れ下がり、電線接触



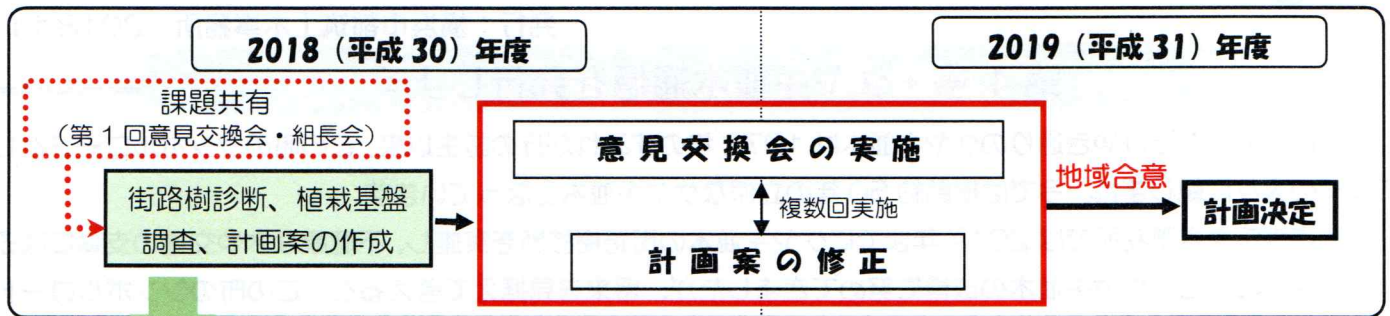
キノコ（コフキタケ）



大径木化、肥大化

今後に進め方について




今後、地域の皆様の意見を伺いながら、将来を見据えてすみれが丘けやき通りをどのようにしていくべきかについて2か年かけて検討していきたいと考えています。



平成30年度に実施する調査について

今年度は、けやき通りの再整備計画の策定に向けて次の調査を行いました。



調査	健全度見直し判定	沿道環境調査	植栽基盤診断 (土壌調査)
内容	既存の初期診断結果を、現地確認により、幅の広いあいまいなB1判定などを見直し、健全度の再診断を行います。	街路樹による人への支障状況 (沿道の信号、交通規制標識、案内標識、照明施設、電柱、店舗・家屋などへの影響、根上り状況等) を把握します。	土壌調査 (土壌硬度試験、透水試験、土壌断面調査、土壌成分分析など) を行います。
			

下水道への被害状況

すみれが丘では、大きく成長したケヤキの根が下水管に侵入し、管を詰まらせるなどケヤキによる下水道への被害も生じています。ケヤキ並木の再整備を計画するにあたっては、下水道への対策もあわせて考えていく必要があります。

第2回意見交換会のお知らせ

以下の日程で意見交換会を開催します。
ぜひご参加ください。

- 日時：12月9日 (日曜日)
13時30分～15時
- 場所：すみれが丘会館
- 内容：今年度の調査結果報告、意見募集



■案内図

